

書誌第104号追

北海道沿岸水路誌

追補第3

令和8年（2026）6月26日発行



海上保安庁

北海道沿岸水路誌

追補第3

この追補は、令和6年12月刊行の北海道沿岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和8年4月17日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和8年6月26日

海上保安庁海洋情報部

注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

ページ	更新箇所（表題、港名等）	備考
7	気象情報	
21	日本の船位通報制度	
22	日本の船位通報制度	
41	北海道南岸 目標	
63	函館港	
64	大鼻岬～恵山《エサン》岬	
74	室蘭港	
76	チキウ岬～苫小牧《トマコマイ》港	
77	白老《シラオイ》港	
89	襟裳岬付近	
90	襟裳岬付近	
99	釧路港	
188	松ヶ浜湾	

積雪 降雪期間中の初期と終期における積雪は、1、2日で解けるが、本格的になると積雪が解けないうちに更に降雪があつて、長期間にわたって積雪が続くようになる。

沿岸各地の雪の初日、雪の終日、降雪日数及び降雪の深さ（年間降雪量）の平年値は、次表のとおりである。

地 名	雪の初日	雪の終日	統 計 期 間	降雪日数	統 計 期 間	降雪の深さ(cm)	統 計 期 間
函 館	11月1日	4月16日	1991～2020年	118.7	1991～2020年	306	1991～2020年
室 蘭	11月2日	4月19日		122.1		157	
苫小牧	11月2日	4月19日	2006～2020年	103.5	2004～2020年	145	
浦 河	11月4日	4月24日	2011～2020年	—	—	128	
広 尾	11月5日	4月29日	2000～2020年	88.6	1999～2020年	297	
釧 路	11月7日	5月1日	1991～2020年	74.3	1991～2020年	127	
根 室	11月6日	5月6日	2012～2020年	105.3	2010～2020年	159	
羅 臼	—	—	—	—	—	545	2005～2020年
網 走	10月30日	5月11日	1991～2020年	132.1	1991～2020年	312	1991～2020年
紋 別	10月27日	5月8日	2009～2020年	—	—	338	
稚 内	10月19日	5月10日	1991～2020年	147.9	1991～2020年	477	
留 萌	10月25日	4月26日	2010～2020年	139.4	2008～2020年	546	
小 樽	10月31日	4月22日	2000～2020年	131.2	1999～2020年	556	
江 差	11月4日	4月17日	2009～2020年	115.7	2007～2020年	219	

（出所：気象庁）

気象情報

全般海上警報 気象庁は、北西太平洋の東経100度～180度、赤道～北緯60度の海域を対象として、船舶の運航に必要な海上の気象などに関する警報をセイフティネット、気象無線模写通報（JMH）、漁業無線気象通報及び漁業気象通報（NHK AM）により放送している。

セイフティネットとは、国際海事機関（IMO）が管理する海上安全情報の国際的な放送システムであり、気象庁は世界の海を21に分けたセイフティネット区域のうち、北西太平洋区域の警報と概況及び台風予報をインマルサットCシステムの高機能グループ呼出セイフティネット（EGC Safety NET）により、インマルサット衛星経由で放送している。

地方海上警報 本書の記載区域及び周辺の海域に係る担当気象台が発表する船舶の運航に必要な海上の気象などに関する警報を海上保安庁の海岸局から無線電話（本編、第8章 海難防止、海上保安庁の通信業務の項参照）及びNAVTEX、また、漁業用海岸局から漁業無線気象通報により放送している。

天気図等 気象庁が作成した天気図類は、気象無線模写通報（JMH）により放送している。

識別信号	電波の型式・周波数
JMH	F3C 3622.5kHz
JMH2	F3C 7795kHz
JMH4	F3C 13988.5kHz

その他、各種気象情報が NHK AM、共同通信社からファクシミリ放送などによっても提供している。

海上保安庁の通信業務

港務通信、巨大船等の航行に関する通報、安全通報、航行警報、気象通報及び日本の船位通報制度による船舶との位置通報のほか、海難に関する通信、天災・地変に際しての非常通信及び専用通信などの海上保安業務の遂行上必要な通信を、次の海岸局で行っている。

海岸局	識別信号	受信電波	送信電波	運用時間	電話番号
		VHF 無線電話 ch 番号 又は電波の型式・周波数	VHF 無線電話 ch 番号 又は電波の型式・周波数		
小 樽	ほっかいどうほあん	ch12、ch16 J3E 2150kHz J3E 2394.5kHz	ch12、ch16 J3E 2150kHz J3E 2394.5kHz	24 時間	0134-27-6172
	004310101	F1B 2189.5kHz	F1B 2177kHz		
塩 釜	しおがまほあん	ch12、ch16 J3E 2150kHz J3E 2394.5kHz	ch12、ch16 J3E 2150kHz J3E 2394.5kHz	24 時間	022-363-0111
	004310201	F1B 2189.5kHz	F1B 2177kHz		

日本の船位通報制度

海上保安庁は、日本の船位通報制度（JASREP：Japanese Ship Reporting System）を次のとおり運用している。

船位通報制度 URL <https://www.kaiho.mlit.go.jp/mission/kainan/jasrep.html>

1 制度の概要

目 的	対象海域内の船舶からの通報によってその動静を把握することにより、当該海域における海難救助の効率化を図る。
対象海域	北緯 17 度線以北かつ東経 165 度線以西の海域
参加船舶	対象海域内にあって、次表に掲げる要領に従い通報を行うことができる船舶
参加方法	この制度への参加は、次表に掲げる航海計画を送った時に始まり、最終通報を送った時に終了する。

2 通報要領

通報の種類	通報の時期	主な通報事項
航海計画	対象海域内の港から出発したとき又は対象海域に入域したとき	船名、識別信号、出発港及び出発日時又は対象海域に入域した地点及び日時、目的港及び到着予定日時、予定の航路並びに速力
位置通報	航海計画又は前回の位置通報から 24 時間以内	船名、識別信号、位置及び日時
変更通報	航海計画を変更したとき	船名、識別信号、航海計画の通報事項のうち変更した事項
最終通報	対象海域内の港に到着するとき又は対象海域を出域するとき	船名、識別信号、到着港及び到着日時又は対象海域を出域する地点及び日時

注意（１）航海の途中で参加を希望するときは、航海計画を通報することにより参加できる。また、航海の途中で参加を終了したいときは、最終通報を通報することにより終了することができる。

(2) 米国の船位通報制度 AMVER 参加船で JASREP への参加を希望する船舶は、AMVER 通報の Y 項目に JASREP と記入すれば自動的に参入することができる。また、JASREP 参加船で AMVER への参加を希望する船舶は、JASREP 通報の Y 項目に AMVER と記入すれば自動的に参入することができる。

(3) 気象庁に気象通報を行っている船舶については、希望により JASREP の位置通報を省略することができる。この場合、海上保安庁では気象通報を JASREP の位置通報とみなす。

この取り扱いを希望する船舶は、航海計画、変更通報及び最終通報の X 項目に [OBS] を表示すること。

3 通報先及び通報の方法

海上保安庁海岸局への VHF 無線電話（国際 VHF）又は海上保安庁警備救難部管理課運用司令センターへの電子メールによる通報のほか、最寄りの海上保安部署への書面の提出又は電報、電話による通報も受け付けている。

海上保安庁警備救難部管理課運用司令センター 電子メール jasrep@jcgcomm.jp
 テレックス番号 72225193JMSAHQ-J

AISによる船舶の自動識別

AIS (Automatic Identification System：船舶自動識別装置)とは、船舶の識別符号、船種、船名、長さ及び幅などの静的情報、位置、針路、速力、船首方位などの動的情報、仕向港、到着予定時刻などの航行関連情報を自動的に VHF 帯電波で送受信し、船舶相互間及び船舶局と陸上局の航行援助施設等との間で情報の交換を行う装置である。

平成 22 年海上保安庁告示第 94 号「港則法施行規則第 11 条第 1 項の規定による進路を他の船舶に知らせるために船舶自動識別装置の目的地に関する情報として送信する記号」の仕向港を示す記号は、次表（本書の記載区域の港湾を抜粋）のとおりである。

仕向港での進路を示す記号は、第 3 編 沿岸・港湾記、函館港、苫小牧港及び釧路港の各港則の項に記載してある。

また、仕向港を示す記号は、第 3 編沿岸・港湾記の各港則法適用港にも記載してある。

仕向港を示す記号一覧表

※ 入力時、仕向港を示す記号の前に「>JP」を入力する。

(港名：五十音順)

港 名	記 号	港 名	記 号	港 名	記 号	港 名	記 号	港 名	記 号
青 苗	AON	厚 岸	AKE	網 走	ABA	石狩湾	ISW	岩 内	IWN
臼 尻	USJ	浦 河	URK	江 差	ESI	枝 幸	ESS	えりも	EMM
雄 武	OUM	鴛 泊	OSD	小 樽	OTR	鬼 脇	ONW	香 深	KBK
霧多布	KRT	釧 路	KUH	沓 形	KTG	様 似	SAM	寿 都	STU
瀬 棚	STN	伊 達	DAT	天 売	TER	天 塩	TSO	十 勝	TOK
苫小牧	TMK	苫 前	TJJ	根 室	NEM	函 館	HKP	花 咲	HNK
羽 幌	HBO	福 島	FKU	船 泊	FND	増 毛	MSK	松 前	MTM
室 蘭	MUR	森	MOR	紋 別	MBE	焼 尻	YGR	余 市	YIC
羅 臼	RAU	留 萌	RMI	稚 内	WKJ				

5 煙 突	42° 38. 2′ N 141° 35. 3′ E	高さ 206m、赤色及び白色、晴天時 25 M沖から視認できる。	苫小牧港を識別する好目標
	42° 38. 2′ N 141° 39. 4′ E	高さ 176m及び 161m、各赤色及び白色	
	42° 36. 7′ N 141° 48. 4′ E	高さ 204m及び 174m、各水色	
襟 裳 岬	41° 55. 5′ N 143° 15. 0′ E	岩崖の岬、襟裳岬灯台がある。	
2 ドーム	41° 58. 2′ N 143° 13. 2′ E	各薄緑色、非常に顕著、付近に2無線塔（各パラボラアンテナ付）がある。	
豊似《トヨニ》岳	42° 04. 6′ N 143° 14. 0′ E	高さ 1,105m、鋭峰、遠望顕著	
ルベシベツ埼	42° 12. 1′ N 143° 20. 2′ E	埼端にある高さ 38mの岩は、レーダの好目標	
雌阿寒《メアカン》岳	43° 23. 2′ N 144° 00. 5′ E	高さ 1,499m、活火山	
雄阿寒《オアカン》岳	43° 27. 2′ N 144° 09. 8′ E	高さ 1,370m、富士山形、活火山	
大黒《ダイコク》島	42° 57. 3′ N 144° 52. 3′ E	厚岸湾口、高さ 105m、周囲は険しい崖、遠望顕著、南西端に厚岸灯台がある。	
湯沸《トウブツ》岬	43° 04. 6′ N 145° 10. 3′ E	高さ約 50mの平らな台地の東端、湯沸岬灯台がある。	
落石《オチイシ》岬	43° 09. 5′ N 145° 29. 8′ E	高さ約 50mの平らな台地の南西端、東北東方約 1Mに落石岬灯台がある。	
ハボマイモシリ島	43° 20. 1′ N 145° 46. 4′ E	高さ 12m、平らな小島、南西端にハボマイモシリ島灯台がある。	
納沙布《ノサップ》岬	43° 23. 1′ N 145° 49. 0′ E	根室半島東端、低い岬、納沙布岬灯台がある。	
貝 殻 島	43° 23. 8′ N 145° 51. 5′ E	高さ 2. 5m、貝殻浅瀬上、貝殻島灯台がある。	

針路法（逆針路の場合、下記各針路を逆航）（第8図参照）

1 津軽海峡東口～室蘭港及び苫小牧港

変針目標及び変針点		針路	備 考
室蘭港へ向かう場合			
(1)	汐首岬灯台 (41° 42.7' N 140° 57.8' E) の南方約 4M	055°	
(2)	恵山岬灯台 (41° 48.9' N 141° 11.0' E) の南東方約 3M	020°	
(3)	恵山岬灯台の東方約 2.5M	335°	港口に向かう。
苫小牧港へ向かう場合			
(4)	上記(1)地点	055°	
(5)	上記(2)地点	020°	港口に向かう。

最大入港船舶 2025年11月5日、客船 MSC BELLISSIMA（171,598 t、喫水 8.7m）が第4区、港町ふ頭に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、渡島及び檜山地区台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合せ先：函館海上保安部 TEL 0138-42-5658）。

海事関係官公署

名 称	電 話 番 号
函館海上保安部（港長）	0138-42-5658
札幌出入国在留管理局函館出張所	0138-41-6922
函 館 税 関	0138-40-4261
小樽検疫所函館出張所	（函館空港出張所へ連絡）0138-59-0248
動物検疫所北海道・東北支所函館空港出張所	0138-84-5415
横浜植物防疫所札幌支所函館出張所	0138-42-6671
北海道運輸局函館運輸支局	0138-49-9901
函館市港湾空港部ふ頭管理事務所	0138-41-3543

通船 第2区の海岸町船だまり（41° 46.7' N 140° 43.4' E）から発着する。

引船 大型船用の引船がある。

補給 岸壁で給水ができる。給油船がある。

修理

名 称	電 話 番 号
函東工業(株)	0138-42-1256
函館どつく(株)	0138-22-3111

医療施設

名 称	電 話 番 号
市立函館病院	0138-43-2000
函館医療センター	0138-51-6281
函館五稜郭病院	0138-51-2295
函館赤十字病院	0138-51-5315
函館中央病院	0138-52-1231

海上交通 青森港及び大間港との間にカーフェリー便がある。

大鼻岬～恵山《エサン》岬（海図W9、W1159）
恵山岬付近



（2022年7月撮影）

概要 大鼻岬（41° 44.4′ N 140° 42.3′ E）～恵山岬（41° 48.9′ N 141° 11.1′ E）間は、海岸近くに陰礁が多い。

大鼻岬～汐首岬（41° 42.6′ N 140° 57.9′ E）間は、浅く湾入して屈曲が少なく、両端部を除くほかは、概ね砂浜となっている。函館空港（41° 46.3′ N 140° 49.2′ E）以東の海岸は、台地である。

汐首岬～恵山岬間は、山地が海に迫って険しいがけ海岸の所が多く、所々に砂浜の小さな湾入部がある。日浦岬（41° 43.6′ N 141° 03.2′ E）の北東方約1.3M、大潤《オオマ》漁港（41° 44.6′ N 141° 04.7′ E）の南側に距岸約0.3Mまで延びる陰礁がある。~~日浦岬灯台（41° 43.6′ N 141° 03.2′ E）の赤光分弧（227°～241°）で示される。~~

潮流 立待《タチマチ》岬（41° 44.7′ N 140° 43.4′ E）北東方の沿岸域では、上げ潮流は北東～東方へ、下げ潮流は南西～西方へ流れ、流速は0.5knを超えることは少ない。

目標

地物名	概位	備考
無線塔	41° 46.4′ N 140° 44.4′ E	高さ98m、赤色及び白色
汐首岬	41° 42.6′ N 140° 57.9′ E	高い崖の岬、汐首岬灯台がある。
2無線塔	41° 43.1′ N 140° 57.6′ E	高さ各326m、灰色、パラボラアンテナ付、遠望顕著
武井《ムイ》ノ島	41° 43.0′ N 141° 01.8′ E	高さ57m、円すい形、鳥の糞のため灰白色になっており、東方及び西方から顕著、レーダの好目標
日浦岬	41° 43.6′ N 141° 03.2′ E	黒色の高く険しい崖の岬、日浦岬灯台及び三角形の大岩があり、遠望顕著
恵山	41° 48.3′ N 141° 10.0′ E	高さ618m、活火山、山頂の東側は赤黒い岩塊に覆われ、西側は硫黄の斑点があり、遠くからは白雲のように見える。
海向《カイコウ》山	41° 48.8′ N 141° 08.0′ E	高さ569m、なだらかな山で、形は恵山と似ているが、全面緑色である。恵山と海向山との間は台地
恵山岬	41° 48.9′ N 141° 11.1′ E	岬の南角に顕著な水上岩がある。北角は台地で恵山岬灯台がある。

第1区	西3号頭	東側(1号)	42° 19.9' N 140° 58.2' E	125	4~7	5,000×1	前面に陰悪地がある。
		東側(2号)	42° 20.0' N 140° 58.2' E	185	8~9	10,000×1	
		頭部(3号)	42° 20.1' N 140° 58.2' E	135	7~7.5	5,000×1	
		西側(4号)	42° 20.0' N 140° 58.1' E	160	9~10	10,000×1	クレーン
		スリップ(5号)	42° 20.0' N 140° 58.1' E	141	4~4.5	700×2	
		-5.5m岸壁(A)	42° 19.9' N 140° 58.2' E	100	5~6.5	2,000×1	東側(1号)東側、前面に陰悪地がある。
		-5.5m岸壁(B)	42° 19.8' N 140° 58.3' E	100	6	2,000×1	-5.5m岸壁(A)南側
		基部	42° 19.8' N 140° 58.2' E	300	3~3.5	700×2	前面に陰悪地がある。
	中央ふ頭	旅客船岸壁	42° 19.5' N 140° 58.4' E	241	9	20,000 t ×1	中央ふ頭東側
		乙種(3号・4号)	42° 19.6' N 140° 58.3' E	234	5~7	4,000×2	
		丙種(5号)	42° 19.6' N 140° 58.3' E	86	5~5.5	2,000×1	
	入江耐震岸壁		42° 19.5' N 140° 58.6' E	233	8~8.5	6,000×1	
	フェリーふ頭	3号岸壁	42° 19.6' N 140° 58.6' E	193	7.5~8	6,000 t ×1	カーフェリー用
		4号岸壁	42° 19.6' N 140° 58.6' E	270	7.5~8	13,000 t ×1	カーフェリー用
第3区	崎守ふ頭	西岸壁(1号・2号)	42° 22.2' N 140° 55.2' E	370	10	15,000×2	
		中央岸壁(3号)	42° 22.1' N 140° 55.4' E	185	10	15,000×1	
		中央岸壁(4号・5号)	42° 22.0' N 140° 55.6' E	480	12~12.5	30,000×2	
		6号岸壁	42° 21.9' N 140° 55.8' E	280	14	50,000×1	コンテナクレーン
		物資専門岸壁(7号)	42° 21.9' N 140° 56.0' E	185	10	15,000×1	
	祝津ふ頭	1号・2号岸壁	42° 20.8' N 140° 56.6' E	370	10~12.5	15,000×2	
		内航岸壁	42° 20.8' N 140° 56.9' E	200	5~6	3,000×2	

※上表のほか、会社専用の係船施設がある。

架橋 航路を横断する白鳥大橋(42° 21.2' N 140° 57.0' E、高さ53m、吊り橋、白色)があり、日没~24時、ライトアップされる。

最大入港船舶 2024年10月4日、客船MSC BELLISSIMA(171,598t、喫水8.7m)が第3区、祝津ふ頭に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、室蘭海上交通安全協議会津波・台風等対策分科会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している(問合せ先:室蘭海上保安部 TEL 0143-23-3133)。

港湾施設

名 称	概 位	長さ (m)	水深 (m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
－5m岸壁	42° 18.5′ N 140° 58.3′ E	380	未 測	－	
－6m岸壁	42° 18.4′ N 140° 58.4′ E	180	未 測	－	

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

医療施設

名 称	電 話 番 号
市立室蘭総合病院	0143-25-3111
製鉄記念室蘭病院	0143-44-4650
日鋼記念病院	0143-24-1331

チキウ岬～苫小牧《トマコマイ》港（海図W1034）

概要 チキウ岬（42° 18.1′ N 141° 00.1′ E）～苫小牧港（42° 36′ N 141° 44′ E）間は、砂浜が発達しており、沖合に陰礁はない。ほぼ中央に白老《シラオイ》港（42° 31.1′ N 141° 19.3′ E）がある。

目標

地 物 名	概 位	備 考	
来馬《ライバ》岳	42° 31. 2′ N 141° 04. 7′ E	高さ 1, 040m、南方からは尖って見える。	
ア ヨ ロ 鼻	42° 27. 2′ N 141° 12. 0′ E	旧灯台（赤色及び白色）がある。低いが南方へやや突出していることから、内浦湾〔噴火湾〕から来る船舶は、チキウ岬を回ると最初に視認できる。西方にある赤土色の険しい崖（鯨岩と呼ばれている。）は遠望顕著	
煙 突	42° 30. 5′ N 141° 16. 8′ E	高さ約 105m、赤色及び白色	
2 煙 突	42° 30. 8′ N 141° 17. 0′ E	各高さ約 81m、灰色	
無 線 塔	42° 35. 4′ N 141° 25. 0′ E	高さ約 89m、白色	
樽 前 山	42° 41. 4′ N 141° 22. 6′ E	高さ 1, 041m、頂部の火口内に溶岩ドームのある活火山で、常に白煙を上げており、遠望顕著	
5 煙 突	42° 38. 2′ N 141° 35. 3′ E	高さ 206m、赤色及び白色、晴天時 25M 沖から視認できる。	苫小牧港を識別する 好目標
	42° 38. 2′ N 141° 39. 4′ E	高さ 176m及び 161m、各赤色及び白色	
	42° 36. 7′ N 141° 48. 4′ E	高さ 204m及び 174m、各水色	

白老《シラオイ》港 (42° 31.1' N 141° 19.3' E) (海図W1404)



(2022年11月撮影)

概要 アヨロ鼻 (42° 27.2' N 141° 12.0' E) の北東方約7Mにある港である。海岸沿いに南南西方へ延びる2本の防波堤及びふ頭から延びる防波堤に囲まれ、南南西方に開口している。

潮汐 この港における平均高高潮は1.3m、平均低低潮は0.3m、平均水面は0.88mである。

潮流 港外の潮流は主に北東流あるいは南西流（流速0.2～0.4kn）で、海岸に並行して流れている。夏季は南西流の頻度が高く、冬季は北東流又は南西流の頻度が高い。

目標

地物名	概位	備考
煙突	42° 30.5' N 141° 16.8' E	高さ約105m、赤色及び白色
2 煙 突	42° 30.8' N 141° 17.0' E	各高さ約81m、灰色

港湾施設

名称	概位	長さ (m)	水深 (m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
西ふ頭第1岸壁	42° 30.9' N 141° 18.7' E	240	10.5～11	18,000×1	
中央ふ頭	第1岸壁 42° 31.3' N 141° 19.1' E	100	4.5～5.5	2,000×1	前面に陰悪地がある。
	第2岸壁 42° 31.3' N 141° 19.1' E	100	5.5	2,000×1	
	第3岸壁 42° 31.2' N 141° 19.0' E	100	5.5	2,000×1	
	第4岸壁 42° 31.2' N 141° 19.0' E	130	7.5	5,000×1	
東ふ頭	第1岸壁 42° 31.3' N 141° 19.2' E	100	4.5～5	2,000×1	
	第2岸壁 42° 31.4' N 141° 19.2' E	100	5	2,000×1	
漁港区	第1岸壁 42° 31.4' N 141° 19.3' E	150	4.5	50 t × 12	
	第2岸壁 42° 31.4' N 141° 19.2' E	150	4.5	50 t × 17	

海事関係官公署

名称	電話番号
白老町白老港湾管理事務所	0144-84-2200

港湾施設

名 称	概 位	長さ (m)	水深 (m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
北澗内岸壁	42° 01.1' N 143° 08.6' E	70	3.5	500 t 級×1	前面に陰悪地がある。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、浦河港・様似港・えりも港台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合せ先：浦河海上保安署 TEL 0146-22-9118）。

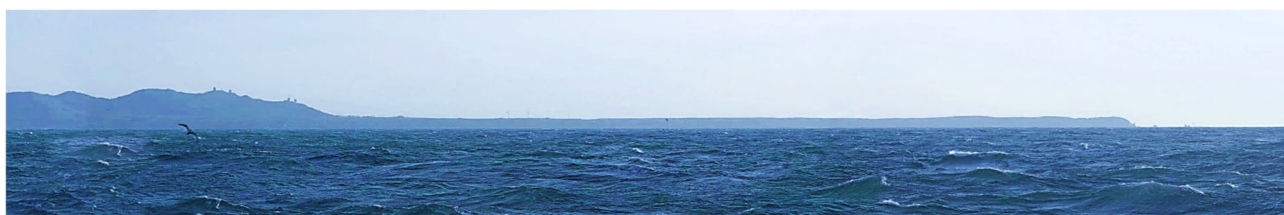
補給 少量の清水、燃料油及び氷の補給ができる。

医療施設

名 称	電 話 番 号
えりも町国民健康保険診療所	01466-2-2265

襟裳岬付近（海図W1031）

西方から望む



概要 えりも港（42° 01.0' N 143° 08.5' E）～襟裳岬（41° 55.5' N 143° 15.0' E）間には、一般船舶の利用できる港湾はない。四ツ谷《ヨツヤ》埼（41° 59.1' N 143° 09.8' E）～襟裳岬間の海岸は、常に波に洗われている。

襟裳岬は、海岸段丘が発達した岩崖の岬である。また、陰礁が南東方約 1.1M に延びている。

東浜の百人浜（41° 59' N 143° 15' E）は長さ約 10km の砂浜で、この付近は風が強く、砂ぼこりがひどい。

目標

地 物 名	概 位	備 考
襟 裳 岬	41° 55.5' N 143° 15.0' E	岩崖の岬、襟裳岬灯台がある。
2 ドーム	41° 58.2' N 143° 13.2' E	各薄緑色、非常に顕著、付近に2無線塔（各パラボラアンテナ付）がある。
豊似《トヨニ》岳	42° 04.6' N 143° 14.0' E	高さ 1,105m、鋭峰、遠望顕著

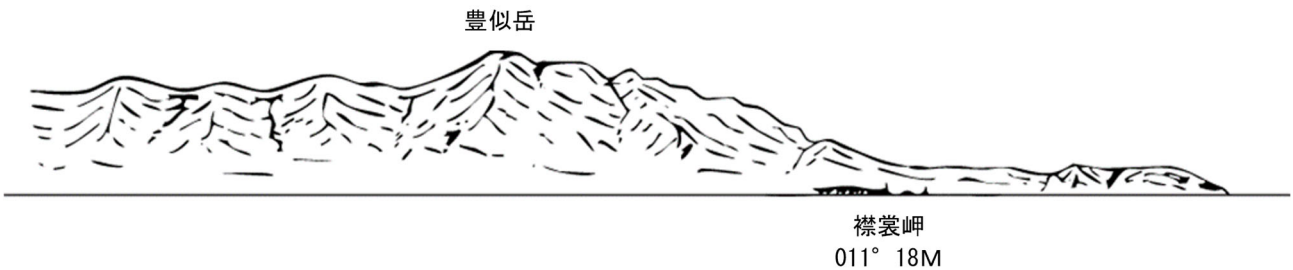
襟裳岬付近対景図

(1) 西方から襟裳岬を望む



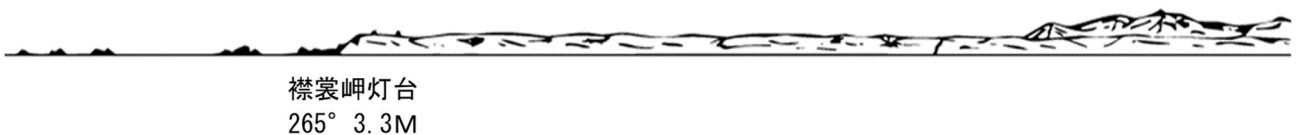
(注意) 遠距離では、最初 (A) 点を襟裳岬と誤認し、次いで (B) 点を同岬と誤認することがある。

(2) 南方から襟裳岬を望む



(3) 東方から襟裳岬を望む

【図の差替え】



航行上の注意 襟裳岬沖は航路の要衝に当たり、船舶の通航量が非常に多いうえ、この付近は好漁場のため、常に多数の漁船が操業している。しかも岬付近は、10m/s以上の強風日数が年間269日(平年値)に及び、荒天が多い。また、夏季は濃霧、冬季は吹雪のため視界が悪く、航海を著しく困難にする。この岬を回る時には、十分に離して航行しなければならない。

襟裳岬～十勝港 (海図W27、W1031、W1032)

概要 百人浜(41° 59' N 143° 15' E)～庶野《ショヤ》鼻〔トセツ岬〕(42° 02.9' N 143° 18.6' E)間は、砂浜と石浜とが入り混じっている。庶野鼻〔トセツ岬〕の南西側に庶野漁港(42° 02.4' N 143° 18.0' E)がある。

庶野鼻〔トセツ岬〕～十勝港(42° 17.5' N 143° 20.0' E)間は、高さ約50～100mの険しい崖で、背後は高さ300～600mに隆起し日高山脈に続いている。崖下は、砂浜や岩浜である。

最大入港船舶 2025年4月18日、客船 DIAMOND PRINCESS (115,906 t、喫水 8.6m) が西区、第2区、第4ふ頭東側10m岸壁21号及び同一12m岸壁22号に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、釧路港安全対策協議会台風・津波対策委員会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合せ先：釧路海上保安部 TEL 0154-21-5575）。

海難 港内及び付近における海難は衝突が最も多く、乗揚げがこれに次いでいる。衝突及び乗揚げは、ほとんどが濃霧時に発生し、乗揚げ事故の発生場所は、知人礁が最も多いが、強い低気圧により、南寄りの強風がある場合、走錨により港の西側の海岸に乗揚げられる例もみられる。

海事関係官公署

名 称	電 話 番 号
釧路海上保安部（港長）	0154-21-5575
札幌出入国在留管理局釧路港出張所	0154-22-2430
函館税関釧路税関支署	0154-22-3730
小樽検疫所釧路出張所	0154-23-3340
動物検疫所北海道・東北支所	0123-24-6080
横浜植物防疫所札幌支所釧路出張所	0154-22-4291
北海道運輸局釧路運輸支局	0154-51-0057
釧路市水産港湾空港部港湾空港課	0154-53-3371

通船 東区、第3区の築港船だまり（42° 58.6′ N 144° 22.3′ E）から発着する。

引船 引船がある。

補給 主な岸壁で給水ができる。燃料油及び氷の補給ができる。給油船がある。

修理

名 称	電 話 番 号
川崎造船(株)	0154-25-2521
釧路重工業(株)	0154-41-9171

医療施設

名 称	電 話 番 号
釧路赤十字病院	0154-22-7171
釧路労災病院	0154-22-7191
市立釧路総合病院	0154-41-6121

釧路港～厚岸《アッケシ》湾口（海図W26）

概要 釧路港（42° 59′ N 144° 19′ E）の知人《シリト》鼻（42° 58.1′ N 144° 22.2′ E）～厚岸湾（43° 00′ N 144° 48′ E）口の尻羽《シリハ》岬（42° 56.2′ N 144° 47.2′ E）間は、概ね砂浜又は岩浜で、海食崖が発達している所もある。この沿岸には、一般船舶の利用できる港湾はない。

釧路出シ（42° 55.9′ N 144° 29.8′ E）は、水深 3.2mの暗岩であり、この沿岸で最も南にある暗礁である。

目標

地物名	概位	備考
ヒセロフ埼	43° 53.4' N 146° 49.4' E	湾口東角

又古丹《マタコタン》港 (43° 52.1' N 146° 47.4' E) (海図W38)

概要 斜古丹《シャコタン》港 (43° 52.3' N 146° 49.2' E) の西側にある奥の深い港である。港口は幅約 0.1Mで、北北西方に面する。港内は水深 10m以下、底質砂で、北寄りの風以外の風を防ぐ。しかし、港口に高さ約 15mの水上岩及びこれに連なる陰礁があるため水路は狭く、わずかに小型船の避泊に適するだけである。

目標

地物名	概位	備考
三ツ山《ミッツヤマ》ノ鼻	43° 52.7' N 146° 47.4' E	又古丹港口東角、背後に三ツ山《ミッツヤマ》という3頂の山があり、西側の頂(高さ138m)は、円すい形の鋭峰で、港口を知る好目標

穴澗《アナマ》湾 (43° 49.8' N 146° 44.1' E) (海図W38)

概要 又古丹《マタコタン》港 (43° 52.1' N 146° 47.4' E) の南西方約 3.3Mにあり、湾入約 1.7Mに及ぶ奥の深い湾で、西風以外の風を防ぐ。湾内は水深 10m以下、底質砂及び泥で錨かきは良いが、幅が約 0.2M未満である。

湾口北角の西方約 0.2Mに水上岩がある。

能登呂《ノトロ》港 (43° 44.7' N 146° 37.0' E) (海図W38)

概要 昆布臼《コンブウス》埼 (43° 42.0' N 146° 38.6' E) の北北西方約 2.9Mにある奥の深い港である。港口付近に洗岩及び港奥に暗岩があるため、小型船でも進入は容易でない。

松ヶ浜湾 (43° 44.2' N 146° 42.1' E) (海図W38)

概要 昆布臼《コンブウス》埼 (43° 42.0' N 146° 38.6' E) の北東方約 3.4Mにあり、直径約 1Mのほぼ円形の湾である。小島 (43° 43.6' N 146° 41.6' E、高さ 64m) と鴨《カモメ》島 (43° 44.0' N 146° 42.8' E、高さ 59m) 間に湾入し、南東方へ開いており、南東方以外の風を防ぐ。湾口は、両側から陰礁が延びているため、可航幅は約 0.2Mである。

錨地 湾奥の河口 (43° 44.7' N 146° 41.6' E) の東北東方約 400mにある崖の頂に向けて、針路 333° で湾口のほぼ中央を航過し、同線上で、小島北端と鴨島北端とを結ぶ線上の 10m等深線付近に錨泊するのがよい。